



【この前のおじさんだ」とばかりの親しい笑み。この子達は、私のことを覚えてくれていたのだ。】

久しぶりのタイへの出張であった。
そして行く先はいつものラヨン市である。
ここでの楽しみはホテル周辺の散策となる。
行くところはほぼ決まっており、繁華街の道路奥にある仏教寺院、そして隣接するこの中学校。
構内への出入りは自由で「部外者立入るべからず」の気配は全くない。

ここは、安全で安心そして平穏で平和なのだ。
一見して部外者と分かる私にも、こうして、胸に手を合わせ、挨拶までしてくれるのだから。

これでお分かりであろう、「何故、ここが好きなのか」